



令和7年6月27日
浦和明の星幼稚園
園長 栗田 亨

「オタマジャクシは増えたけど、カエルはどこへ行ったのだろう？」18日梅雨の晴れ間の暑い日差しの中、第3回目の園外“探検”に出掛けた年中男児の言葉です。

年少の時5回も園外に出た経験を持つ年中組は、5/28田植えが終わったばかりの見沼田んぼを皮切りに、6/18には、大間木公園へ、そして今回、その後の変化の様子を見に再び見沼田んぼに出かけました。そこで問題です。今回どのルート通って行ったでしょう？

Aルート 南門から出て用水沿いに歩き専用門の手前の橋を渡り、住宅地側の道路に沿って行き、再び橋を渡り田んぼの畦道に出た。

Bルート 南門から出て用水路沿いに歩き、そのまま1回目の帰りに通った田畑側の遊歩道を歩き田んぼの畦道に出た。

慣れていて、より安全なのはBです。集団行動も身に付いてきたので、ちょっと冒険するならAです。正解は、Aです。それには、上記以外の理由があります。この時期、代用水の周りは草がきれいに刈られ、用水路や流れに棲む生き物が子どもの背丈でもよく見えます。今回のねらいは、苗の成長や田んぼの生き物がどうなっているかを見るということです。折角ならば、用水の用水たるゆえんを発見して貰えたら嬉しいなあという思いもありました。住宅地側から用水路を見ると、あるものがよく見えます。専門用語で坎（いり）と言って、用水から田畑に水を引き込む施設が見られるのです。そこは、柵が扉状になっていて鍵がかけられています。水門を開ける大きなバルブと鉄格子に囲われた取入口、そして、水路に下りるトラップがあります。これが、武蔵野線の手前の田んぼ迄のわずかな数百mの間に3か所もあるのです。見沼代用水については、小学校4年社会科の教科書で取り上げられているものですので、幼稚園児に教える必要も分からせる必要もありません。大切にしたいのは、幼稚園だからこそ、遊びの中で様々なものに気付いてほしいということです。言語化できなくても、不思議だなあ、何だろう、どうしてなのだろうという思いを誰もが持って欲しいということです。できれば、冒頭の子のように、変化に関心を持ち、疑問形にして表現できたら花丸です。

ぬかるんだ畦道を通らなければいけない時、ぬかるんでいない草の中へ踏み込むことを選ぶか、比較的ぬかるんでいない泥道をゆくか、気を付けながらも思い切ってぬかるみの中を行くか、親としては悩ましいところだと思います。先生方には、どの道を行くか、結果どうなるかも含め状況をよく伝え、自分で選ばせて欲しいと伝えています。探検が終わった後の子ども達は、靴も靴下も泥だらけの子が多く、ニッコニコの笑顔の反面、お母さんに叱られるかもと心配する子もいます。自分で選んで汚したのなら自分できれいに洗わせましょうとも伝えています。滑る、転ぶ、汚れることも含め、この時期にしかできない様々な経験をさせたいと願っています。汚れた靴は勇者の印。探検の日の靴は汚れてもよいもので。もし、汚して帰ってきたら、わけを聴いて褒めてください。そして、後始末の洗い物をご一緒にしてください。「やってみたい」は、後始末迄できて「やってみた」となります。

待ち遠しい夏休みまであと一月を切りました。その前には、納涼祭りや年長の『はっぴーふうー！わくわくきらきらかい』など、子どもたちの「やってみたい」がたくさん詰まったお楽しみが待っています。納涼祭りには、年少中、おひさま、星の子、パピーのご家族そろってお出かけください。年長の活動の様子は、後日何らかの形で還元すると聞いています。お楽しみに。夏休みの前の今だからこそ、どんなことを「やってみたい」のか、そのためにはどんな準備をすればいいのか、あるいは今から、お子さんが様々な道を選ぶ習慣を、少し努力すれば実現しそうな道を選ぶ習慣を身に付けられたいなあと思います。